

【C：今年度の取組を自己評価シートにそって評価しよう！】

事例⑧職員会議を活用した

形成的な自己評価の取組

KEY WORD

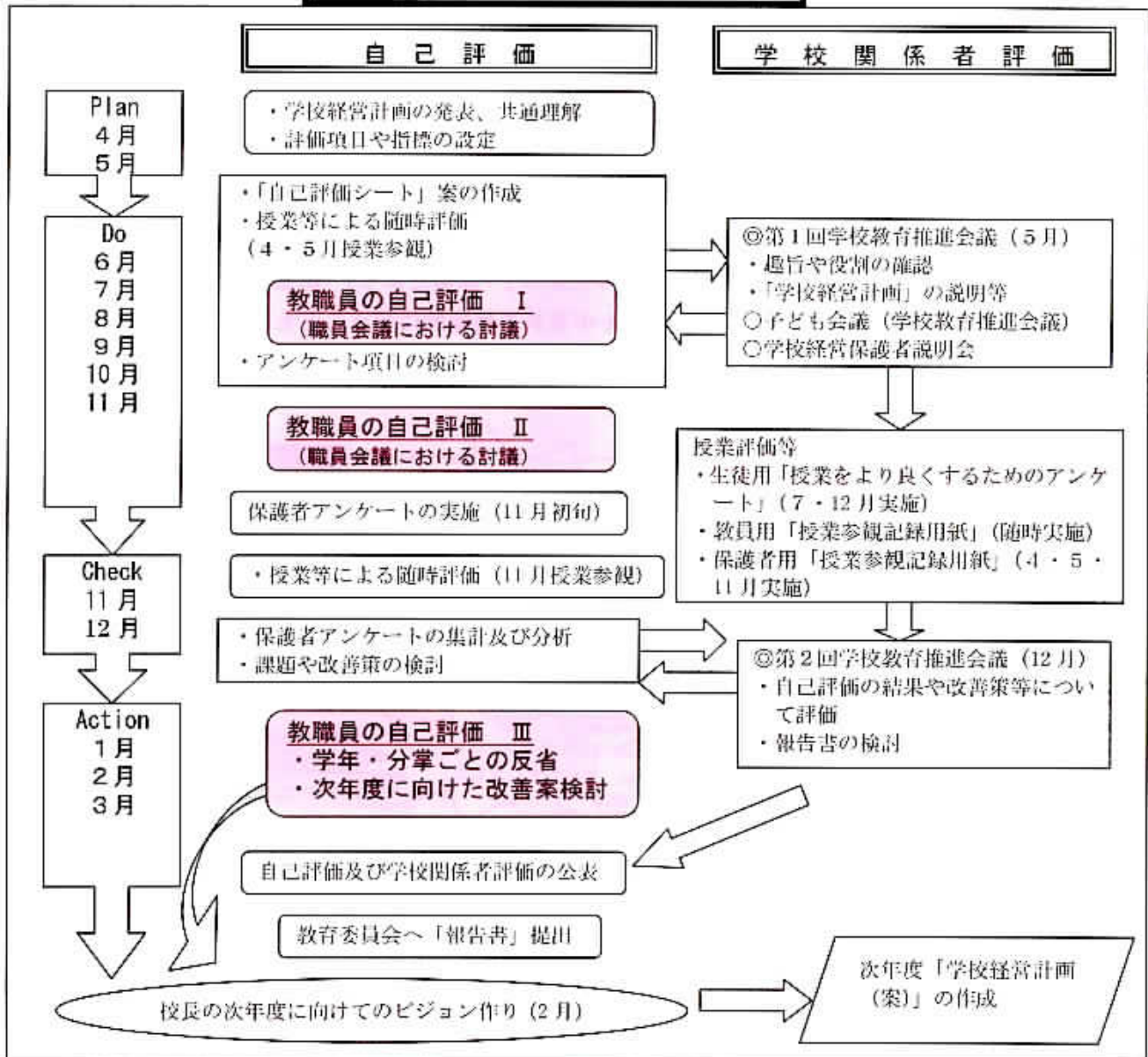
- ・職員会議の活用！
- ・速やかな改善！



教職員による自己評価をアンケートではなく、職員会議による討議を主として行うこともできます。職員会議を活用すると、挨拶や服装指導、学習習慣の確立等は年度末を待たずに、やれることから一つずつ改善していくことで目標実現をめざすことができます。

形成的な自己評価で速やかな改善を

学校評価の流れ



教職員の自己評価 I
(職員会議における討議)

6月 職員会議における学校評価に関する説明を行う。
・校内学校評価委員長が今年度の学校評価についての説明を行う。<討議 → 共通理解!>

7月 授業改善のための振り返りをする。
・校内学校評価委員会の基本案をもとに、教科ごとに「授業をより良くするためのアンケート」を作成する。
・7月と12月に子どもたちが回答する。
・アンケートの集計を各自が行い、教科会で分析する。
・校内学校評価委員会で学校全体の課題を分析する。
<討議 → 改善!>

教職員の自己評価 II
(職員会議における討議)

10月 学年会で、自己評価シートと2色の付箋を配付する。
1週間後の職員会議後に、一人一人が書いておいた付箋を評価項目別に「強み」と「課題」に分けて貼り、退出する。それをもとに校内学校評価委員会が自己評価用資料を作成する。
自己評価用資料をもとに、学年会で改善策を話し合う。<討議 → 改善!>

自己評価用資料				
評価項目	具体的取組	評価指標	本校の強み	課題
学習指導	「授業をより良くするためのアンケート」を生かしたわかる授業づくり	各教科の学習案内に基づき、つけたい力が子どもたちに身に付いている。	アンケートを実施したことにより、授業改善に役立った。	アンケート結果を複数で振り返る時間がとれるとよい。
生徒指導	挨拶や身だしなみ、清掃指導の徹底	挨拶や服装、清掃指導が継続的に行われている。	指導方針がはっきりしていて、全教職員で指導している。	職員の清掃分担が複数あり、指導が徹底できない。

11月 保護者アンケートを実施する。
・校内学校評価委員会で保護者アンケートを分析し、課題や改善策を検討する。
<討議 → 改善!>

教職員の自己評価 III
・学年・分掌ごとの年間反省
・次年度に向けた改善策検討

1月 学年・校務分掌ごとに年間反省を行い、次年度の改善策を検討する。<討議 → 改善!>
・10月、11月の話し合いと重複するものについては省く。
2月 次年度の学校評価計画を作成し、校内学校評価委員会が職員会議に提案する。<討議 → 決定!>



校内学校評価委員会が「自己評価 I、II、III」で何を行うのかを具体的に示すことで、今回は何をやる会議なのかが明確になり、話し合いも具体的なものになります。

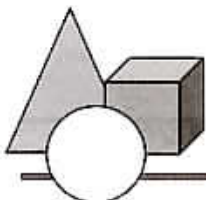
授業をより良くするためのアンケート
【理科】 (生徒用)

これは、授業をより良くするためのアンケートです。成績には関係ありませんので、素直なあなたの気持ちや考えを教えてください。先生方の授業改善、および生徒の学習相談等にも活用します。
(1) あなたの学年・クラス・名前を教えてください。
()年()組()名前()
(2) 次の各項目について、あてはまるものを教えてください。

アンケート項目	よく当てはまる	当てはまる方が多い	あまり当てはまらない	ほとんど当てはまらない
右の4段階から1つ選び、○をつけなさい。				
理科の授業の学習目標はいつもよくわかる。				
理科の授業の進み方はちょうど良い。				
理科の授業では、考えたり話し合ったりする時間がある。				



改善策が常時検討され、改善が図られているので、年間反省の会議は1時間位で終わります。次年度の計画も、ゆとりをもって立てられます。



【C：今年度の取組を自己評価シートにそって評価しよう！】

事例⑨ 1枚の自己評価シートを 3度活用する自己評価の取組

KEY WORD

- ・ 個人からグループ・全体へ！
- ・ 視点の深まり！



学校教育目標をもとに自己評価シートは作られます。職員一人一人が共通理解を図り、学校全体の教育活動を振り返り改善につなげていくことが大切です。そのために、同じ自己評価シートを活用して、個人からグループ、そして全体へと考えをつなげ様々な角度から振り返ることが大切です。

自己評価は、学校教育目標から重点目標を導き、評価項目、評価指標を設定した自己評価シートをもとに実施されます。学校としての自己評価の評価を決定するにあたって、様々な方法が考えられます。職員のアンケート（A B C D等の評価を含む）をもとに、平均を出して決定する方法や、全体会（職員会議等）を活用して、総意で決定する場合があります。

一人一人の職員の声反映し、様々な角度から学校をより深く見つめるために1枚の自己評価シートをもとに、個人・グループ・全体へという流れを用いて学校評価に取り組んだ学校の事例です。

ステップ① 各自で自己評価 表A

個人

柱	確かな学力を育む学校	豊かな心を育む学校	開かれた学校	安全
目標	① 子ども一人一人の良さを生かす教育を行う ② 学校の全教育活動を通じて言語活動を充実させる ③ 新学習指導要領についての研究を深める	① 他者を思いやる心や自尊感情を育てる ② 体験活動や読書活動を通して感動する心を育てる ③ 子どもの主体的な取組を支援する	① 教育相談の充実に努める ② 学校評価の充実に努める ③ 情報の発信を積極的に行う	① ② ③
評価	A B C D	A B C D	A B C D	A
評価指標	・あらゆる場において「言語活動の充実」を意識して指導にあたる (A B C D)	・挨拶の定着に向けて、継続した指導を行う (A B C D)	・児童や保護者の相談には即時かつ誠実に対応する (A B C D)	
	・良さを生かす観点からの評価活動を充実させる	・学習面、生活面等のあらゆる場面において、「他者を思いやる心」と「自分を大切にすること」の育成を図る	「緑の手紙」や教育相談窓口の設置を継続し、相談しやすい体制を整える	特別 こと を共有 支援に取り組む

- 各自が、評価指標をもとに達成度を一つ選んで○をつける。
- この用紙をもとに、次回のグループで話し合うので、評価は平均化しない。
- 全教職員で行う。それぞれの立場から見えてきた部分を評価する。



なかなか挨拶は定着しないなあ。Cかな。

どの学年も保護者に協力を得て、挨拶も随分定着しているわ。Bだわ。



ステップ② グループで自己評価 表B

グループ

柱	確かな学力を育む学校	豊かな心を育む学校	開かれた学校	安全・安心な学校
目標	④ 子ども一人一人の良さを生かす教育を行う ⑤ 学校の全教育活動を通じて言語活動を充実させる ⑥ 新学習指導要領についての研究を深める	④ 他者を思いやる心や自尊感情を育む ⑤ 体験活動を通して心を育てる ⑥ 児童の個性を支援する	④ 教育相談の体制を整える	④ 特別支援教育の充実を図る
成果と課題				
後期に向けた具体的な取組				
学校関係者評価委員会から				

- 後期開始日の午後に実施。
- 校長、教頭を除く全教職員を5・6人のグループに分ける。
- それぞれのグループの話合いを教務主任・総括教諭等がリードする。
- 経験年数、教員と職員のバランスを配慮して構成する。
- 主に、評価の分かれた項目を中心に話し合うことで活発化する。
- 評価を平均化するのでなく、話し合った内容を成果と課題、後期に向けての具体的な取組という形で文書表記する。



なかなか挨拶は定着しないなあ。やっぱりCですよ。



挨拶をなかなかしないけど先生方は感じられていますが、給食の食器を返却する時はいつもきちんと挨拶できる子どもたちが多いですよ。



では、子どもたちは結構挨拶はできているんですね。調理員さんの話を聞いて少し安心しました。その辺りを中心に話し合いましょう。

ステップ③ 校内学校評価委員会で自己評価 表C

全体

柱	確かな学力を育む学校	豊かな心を育む学校	開かれた学校	安全・安心な学校
目標	④ 子ども一人一人の良さを生かす教育を行う ⑤ 学校の全教育活動を通じて言語活動を充実させる ⑥ 新学習指導要領についての研究を深める	④ 他者を思いやる心や自尊感情を育む ⑤ 体験活動を通して心を育てる ⑥ 児童の個性を支援する	④ 教育相談の体制を整える	④ 特別支援教育の充実を図る

1班表B

柱	確かな学力を育む学校	豊かな心を育む学校	開かれた学校	安全・安心な学校
目標	④ 子ども一人一人の良さを生かす教育を行う ⑤ 学校の全教育活動を通じて言語活動を充実させる ⑥ 新学習指導要領についての研究を深める	④ 他者を思いやる心や自尊感情を育む ⑤ 体験活動を通して心を育てる ⑥ 児童の個性を支援する	④ 教育相談の体制を整える	④ 特別支援教育の充実を図る

2班表B

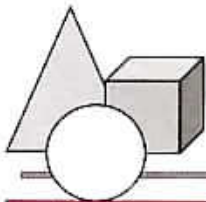
柱	確かな学力を育む学校	豊かな心を育む学校	開かれた学校	安全・安心な学校
目標	④ 子ども一人一人の良さを生かす教育を行う ⑤ 学校の全教育活動を通じて言語活動を充実させる ⑥ 新学習指導要領についての研究を深める	④ 他者を思いやる心や自尊感情を育む ⑤ 体験活動を通して心を育てる ⑥ 児童の個性を支援する	④ 教育相談の体制を整える	④ 特別支援教育の充実を図る

3班表B

柱	確かな学力を育む学校	豊かな心を育む学校	開かれた学校	安全・安心な学校
目標	④ 子ども一人一人の良さを生かす教育を行う ⑤ 学校の全教育活動を通じて言語活動を充実させる ⑥ 新学習指導要領についての研究を深める	④ 他者を思いやる心や自尊感情を育む ⑤ 体験活動を通して心を育てる ⑥ 児童の個性を支援する	④ 教育相談の体制を整える	④ 特別支援教育の充実を図る
成果と課題				
後期に向けた具体的な取組				
学校関係者評価委員会から				

学校全体の自己評価 表C

- 各グループは、表Bに記録し、校内学校評価委員に提出し休憩にはいる。
- 校内学校評価委員は休憩時間を利用して、各グループの表Bを全教職員分印刷する。
- 全体会で各グループの報告を印刷された資料を使って聞きあう。
- 校内学校評価委員会が、各グループの報告やその後の全体会の話合いの結果をもとにまとめる。これが、学校としての自己評価となり、学校関係者評価委員会に提出される。
- 学校関係者評価委員会での意見を表Cに記入し、職員会議でそれを踏まえて具体的な改善策について話し合う。



【C：今年度の取組を自己評価シートにそって評価しよう！】

事例⑩授業参観を活用した

学校関係者評価

KEY WORD

・教職員と会話・交流！
・学校と地域の視点で
チェック！



学校関係者評価委員会は、各種の資料の検証や、学校の諸活動の観察等を通じて、学校が行った自己評価の結果及びそれを踏まえた今後の改善方針について評価していくものです。話し合う内容がただ単に各委員の教育論になったり、学校に対する注文の会になったりしないようにすることが大切です。

授業参観を活用した学校関係者評価

学校関係者は
学校の応援団

学校関係者評価を充実させる

学校関係者評価委員会で授業参観、施設・設備の観察を通して、
学校運営について意見交換

学校の現状や取組を知り課題意識を共有

学校運営の改善へ
学校と家庭・地域の相互理解

学校関係者評価の流れ(年間)

①学校関係者評価委員会を組織する

保護者、地域住民、青少年健全育成団体関係者など、学校と直接関係のある方や教育関係者等を評価者とする学校関係者評価委員会を組織する。

②取組内容等の説明

学校関係者評価委員会に対し、重点目標や自己評価の取組状況等を説明する。

③学校運営の様子を理解

学校関係者委員会は、授業や学校行事の参観、施設・設備の観察、教職員や児童生徒との対話を行う。

学校公開日に！

④評価を行う

学校関係者評価委員会は、学校の自己評価の結果及び今後の改善方針、重点目標や評価項目等の在り方等について評価する

⑤結果の取りまとめ

学校関係者評価委員会は、その評価の結果を取りまとめる。

⑥報告書の取りまとめ

学校は、学校関係者評価の結果を踏まえ自己評価の結果に基づく今後の改善方針を見直し評価結果と改善方針を報告書に取りまとめる。

⑦公表・設置者に報告

自己評価結果並びにそれらを踏まえた今後の改善方針について、広く保護者に公表し、報告書を設置者に提出する。

⑧改善を図る

学校は、改善方針に基づき、次年度の重点目標の設定や具体的取組の改善を図る。

学校公開日を活用した学校関係者評価

<学校関係者評価委員が朝から学校を参観>

- 子どもたちの登校の様子や先生方の登校指導を参観。

<授業の参観・施設、設備の観察>

- 授業参観、施設・設備の観察などを通し学校の様子や授業を見て気づいた点（強み・課題）を2色の付箋に記入し、具体的に指摘してもらえようにする。

<授業参観、施設・設備の観察後、学校関係者評価委員会を開催>

- 学校関係者評価委員、教職員、教育研究者等も交え学校関係者評価委員会を開催。
- 学校関係者2～3名、教職員1～2名、で班を編成し、記入された付箋をグループごとに整理し、項目を設定する。
- 班の作業は、教職員が中心になって行い、対話の中で十分意見交換し相互の共通理解を深める。

<グループごとに発表を行い、共有化を図る>

- グループでの話し合いを進めた教職員が発表し、共有化を図る。

<教職員への伝達と改善>

- 作成したものを職員室に掲示し、話し合いの記録を全教職員に配付して会議の内容を伝える。
- 全教職員でその結果と会議の内容を基に分掌部会、学年会等を開き、改善策などを話し合うなど自己評価を進める。

<次回の学校評価関係者評価委員会に生かす>

- 今回の結果を学校改善の視点として会議を行う。

ここが
ポイント

学校公開日に学校関係者評価委員会を行う良さは、学校関係者評価委員の方々が気軽に学校に行き、先生方と話すことができることです。



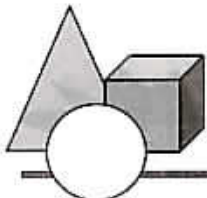
グループごとに付箋を使った話し合い

成果

- 作業の過程で優れている点と改善点を見いだしていき、学校関係者評価委員と教職員が十分な意見交換することで共通理解を図ることができます。

- 学校の現状と取組への理解を得て、共に学校を良くしていくための活動に前向きに取組む方を考えていけます。

- 学校関係者評価委員の方から学校への十分な理解が得られます。また学校関係者評価委員としての見目が育ちます。



【A：成果と課題を明確にして、結果を生かして次につなげよう！】

事例⑪ 学校評価の新年度への生かし方

KEY WORD

- ・チェックからプランへ！
- ・次年度の計画の策定と準備！



学校全体で取り組むこと、学年で・学級で取り組むこと、各分掌で取り組むこと等、具体的な取組内容を整理し新年度に生かしていく事が大切です。

新年度へ向けてどうつなげていくか

取組の成果や課題、改善策等について保護者や地域住民に公表・説明すると共に評価結果を生かして、新年度の計画の準備をする必要があります。

見えてきた課題に対して、行事や施設・設備等の改善で学校全体で取り組むことの他に、教職員一人一人が自分の校務分掌や学年、教科の中で、どれだけ具体的に改善策を考えられるかがポイントになってきます。

学校全体で取り組むこと、学年で・学級で取り組むこと、各分掌で取り組むこと等、具体的な取組内容を整理して考える必要があります。

今年度から新年度への流れ

評価結果・改善策等の公表・説明

☆前年度☆

公表後の意見の集約と次年度の方向をはっきりさせる。

校内学校評価委員会・職員会

新年度職員会議

☆新年度☆

年度末にまとめた学校評価計画を基に修正し確認していく。

新年度の教育計画立案(学校教育目標、重点目標、評価項目、評価指標)

- 学校説明会等で説明
- 学校便り、学校要覧で説明
- リーフレットの作成・配付

前年度のうちにすること

- 保護者や地域住民に対して改善策を含め評価結果を公表していきます。
- 評価項目と評価指標との妥当性を検討します。
- 校務分掌などの校内組織、年間計画等を見直し、諸条件の整備を進めます。

新年度に取り組むこと

- 教職員の共通理解の基、新年度の計画を立てていきます。
- 新年度の新しい体制で、改善策を確認し重点目標を設定し学校運営を行っていきます。

新年度につなげていく（例1）

課題解決に向けてのマトリックス

「いつ」「だれが」「どのような方法で」改善策に取り組むのかを明確にすることが大切です。マトリックスを作るのも一つの方法です。

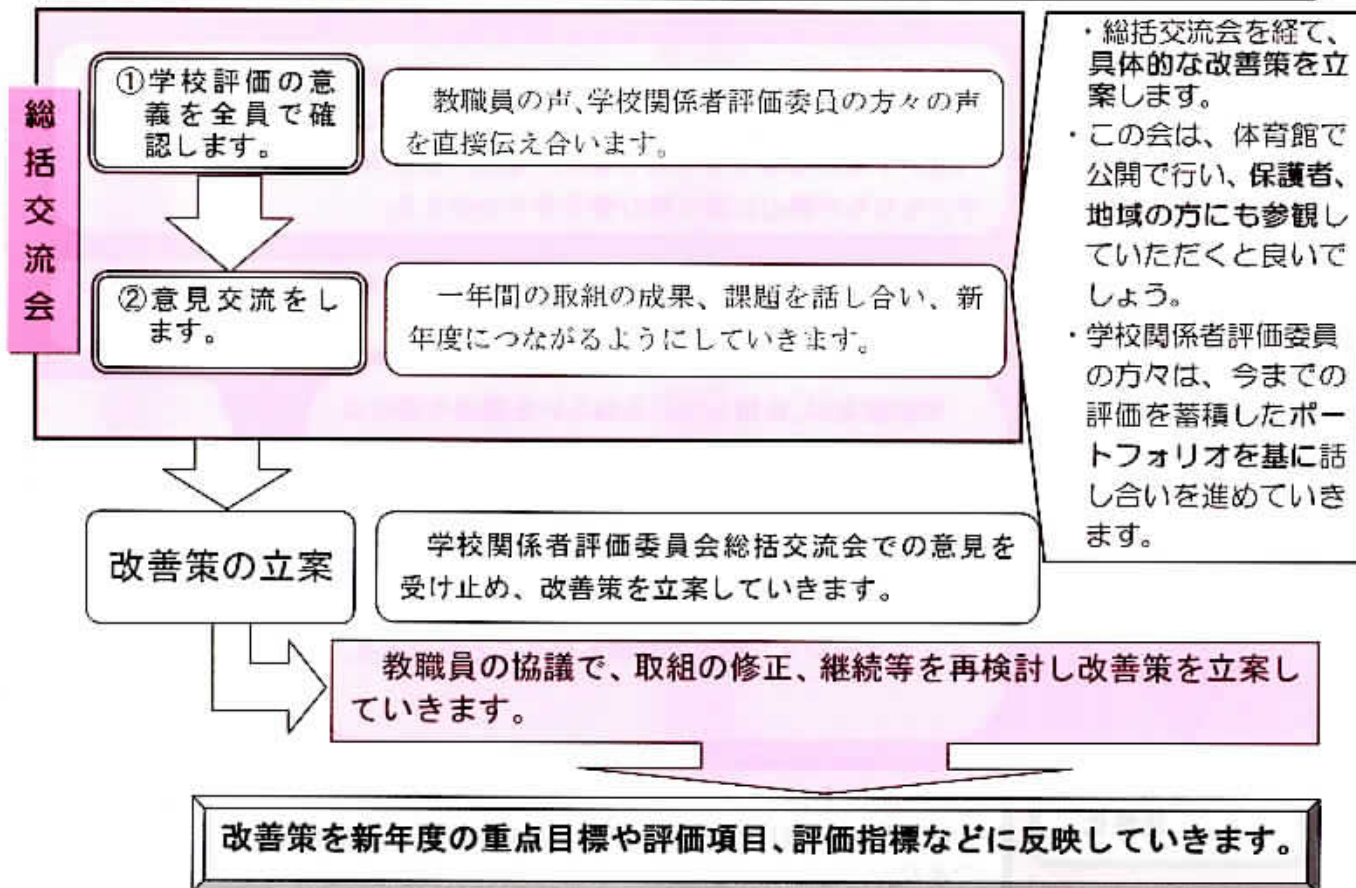


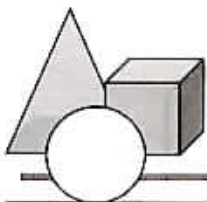
〇〇〇学校 課題解決に向けてのマトリックス						
	学級	学年	各分掌	学校全体	地域社会	保護者
今すぐ	朝の「ぐんぐんタイム」の内容を難易度別に再検討しよう。				学校便りに、次回の授業参観での各クラスの見所を載せて、取組を発信しよう。	
今学期中						
今年度中	教材を使用しやすいように、教材一覧の整理に教科主任を中心に取組もう。		挨拶運動を形骸化させないために、職員が各教室に入るときに率先して大きな声で挨拶に取り組もう。			
新年度						

新年度につなげていく（例2）

学校関係者評価委員会総括交流会の実施

学校関係者評価委員の方々と教職員とで、一年間の取組の成果、新年度への課題について話し合う総括交流会を全体で実施します。この総括交流会は、新たな気づきの場となるようにします。





【A：成果と課題を明確にして、結果を生かして次につなげよう！】

事例⑫地域の力を生かした学校改善

KEY WORD

- ・互いに理解を深める！
- ・共によりよい学校づくり！



学校・家庭・地域の共通理解を深め、連携協力の促進を図り、教育の質の向上を図っていくことが求められています。

信頼される学校をめざした地域との協働



「学校教育の主役は子どもたち」。学校評価を通して共通理解を深め、学校と地域の双方向での取組を行うことで本来の連携のあり方がみえてきました。ここでは前年度の学校評価の課題を踏まえ、ステップ1～ステップ5の段階で連携協力し合い、保護者・地域住民のみならず学校がお互いに理解を深め、よりよい学校づくりを行っていった取組を紹介します。

ステップ1

できることから
はじめよう

地域との交流 文化教室〔体験教室〕の実施

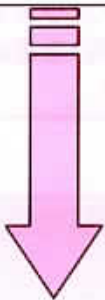
文化教室について

地域との交流の中で、「文化教室」を、行事に組み込んでいる学校がある。毎年、数多くの講座が開かれ、造形活動的な講座も多く、地域の専門家が丁寧に指導してくれる姿は、地域の教育力の層の厚さを感じる。子どもたちが熱心に取り組む様子が見える。

地域のコミュニケーションの場

「文化教室」そのものが、さまざまな文化を伝承する地域におけるコミュニケーションの場にもなっている。

文化教室を通して



学校教育が、目指しているねらいを視点や切り口を変えることで新しい展開が見えてくることもある。地域での活動は、人やものと対峙し、他者理解をしつつも自尊感情をもてる状況を自然につくっているように思われる。また、文化体験を通してコミュニケーション能力の育成も行うことができる。

地域の方々と
子どもたちとの
ふれあい。
学びあい。

学校教育の 活性化

子どもたちは、体験的な学習を通して主体的に取り組む能力を身につけ、本物に触れることで学ぶことの楽しさや成就感を味わうことができた。

ステップ2

学校から地域へ発信

地域の行事を学校で取り組んだり、学校行事を地域に披露したりすることが相互理解に有効である。

地域教育会議主催の音楽祭も、中学校を会場にして実施するようになった。これも地域教育会議に向けて積極的に発信した結果である。

地域教育会議主催の音楽祭等を通じて学校を地域に開くことは近隣の子どもたちにも広がり、地域の協力体制が整った。

地域の行事を学校を開放して行っていただき、地域との結びつきを一層深めた。



ステップ3

学校改善に向けた「地域懇談会」の開催

地域教育会議、PTA、学校の三者による「授業改善に向けての授業アンケート」を実施する。その後、地域教育会議の方々と教職員で「地域懇談会」（学習会）を開き意見交換、協議を行い授業の改善に向けて動き出す。

地域教育会議の方々と教職員の「地域懇談会」において、地域と学校の協働に関する「協働分科会」、学習評価についての「評価分科会」、部活動についての「部活分科会」を設け、具体的な改善に向けての取組を進めてきた。

地域教育会議の方々と教職員の「学習会」を開設した。

ステップ4

地域の方々による生徒のための学習会「アットホームな寺子屋」の実施

地域の教育力を活用し、地域の方による生徒のための「学習会」を実施した。数学と英語の2教科にしぼり、基礎・基本の内容について学習指導をしてもらうため、地域住民、かつて教師経験のある方、塾の講師、大学生等が指導にあたってくれた。

子どもたちの学力向上をめざし、週1回全学年で英語と数学の学習会を学校の教室を使って実施した。生徒は自分で必要な科目を選んで受講している。数学の講師は元エンジニア。英語は元商社マンが講師を担当した。講師は、ボランティアで10名程の方が集まった。今後、科目の幅を広げることも考えている。

今回の学習会の実施のように、地域の教育力を生かした取組を行うことで、学校と地域が連携を深め、よりよい学校づくりをめざしていくことができる。

この取組は、ステップ1で紹介した「文化教室」で講師になられた方が実際に子どもたちに教えてみて、「教える難しさ」「先生の大変さ」を感じ、何か先生方に何か協力することはないかということで行われようになりました。

ステップ5

教職員と地域・保護者が参加する授業研究会の実施

校内授業研究会に地域の方々をお呼びして、意見をもらった。授業のみでなく、研究協議会にも参加し、日々の学校の取組についても知っていただいた。地域の方々から授業や研究協議会についての率直な意見や感想が出されたことで、新たな視点での課題も見えてきた。

<協議会で出されたの地域の方々からのご意見と学校としての改善策>

- この学習が子どもたちにとって今後どう生きるのか。知識だけでなく、今の生活にどう生かすかを考えると、もっと家庭を取り込んでみても良いのではないか。

→学校と家庭との連携、共通理解のあり方についてもっと検討していこう！

- 地域というと私たちは町会等の参加による団体をイメージしてしまうが、一人一人の体験活動への関わりが地域というのも分かった。

→多くの地域の方の参加におけて、垣根を低くしていく努力を進めよう！

- 「明るく活発」と、「落ち着きがない」の境目はどこにあるのか考えた。今日の授業は「明るく活発」だった。子どもの興味・関心をいかに引き出すかによってその違いがでるのだと思った。

→子どもの意欲を引き出すような教材開発、学習展開の工夫が大切！

- 地域の方が授業で関わる目的とは何か。目標に合った資料、人材以外にも、保護者・教師以外の人からの人生観も学ぶことができるのでは。身近にこういう人がいると認識するだけでも意味がある。また、地域の活動への参加は、保護者がまず意識をもちたい。

→ゲストティーチャーの活用を考えていこう！

- 子どもたちが地域に出て活動していると、地域の方にも「こんな勉強をしているんだな」とわかる。地域に発信していくことは、とてもよいことだと思う。

→学校の内だけでなく、外に積極的に発信していくことで理解を得よう！

地域の方とともに創る授業

地域・保護者が参加する授業研究会を実施したことで、学校の指導目標と、地域の方の願いを相互に理解し合い、地域と連携した授業をつくることができ、学校への理解が深まるという成果を得ることができた。そして、子どもにとって意義ある授業を実現する手立ても広げることができました。

地域との協働から授業力向上へ ステップ1～5の取組を通して

- 各学校においても創意工夫しながら地域と連携を図り、地域の教育力を活用した様々な取組を行う中で、教育の質の向上を図りよりよい学校づくりを行っていくことが大切です。
- 学校、家庭・地域との協働を推進し、よりよい授業が行われるよう教師一人一人が意識的に授業を改善し、授業力の向上を図っていくことが学校改善につながっていきます。

